

2021 年度事業報告

I. 調査研究事業部門

2021 年度事業計画に基づき、嗜好品と人間・社会に関する心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究、およびたばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報収集、論考の取り纏めに取り組んだ。また、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施した。調査研究によって得られた成果については、学会発表、論文投稿を行い、併せて、これに関する考察を財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて広く国民へ普及啓発を図った。

1. 調査研究事業

当年度に実施した調査研究活動は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

これまでの心理学研究および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する各領域の調査・研究を実施した。心理学研究においては、「嗜好品の心理学研究（嗜好品摂取とレジリエンスに関する実験）」をオンラインにより実施した。社会学研究においては 2020 年度実施の「嗜好品と社会的意識・地位に関する調査」の結果を公知化。2021 年度は「嗜好品と社会的意識および行動の変化に関する調査」を実施した。その他各領域のこれまでの研究成果については、継続して学会発表や学会誌への論文投稿を実施した。また、調査結果については適時 TASC ウェブサイトにおいて発表した。

(2) たばこ史・たばこ産業史研究

研究助成等を通じて関係を構築した大学等研究機関の研究者や在野の研究者と連携を図り、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報を収集し、論考の取り纏めを行った。

(3) 研究関連情報の整備

調査・研究事業への効果的な活用を図るため、TASC 所蔵の書籍や研究報告書等諸情報の継続的な資料整備を行った。

2. 研究助成事業

2021 年度採択の研究に対する助成および 2020 年度助成研究の報告会を実施した。2020 年度研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し国会図書館に納本するとともに、要約と全編を TASC ウェブサイトに掲載した。また、2022 年度分の応募研究について、審査・採択を実施した。

なお、報告会、研究審議会は都内会場に参集せずオンライン開催へ変更した。また、2021 年度採択した研究のうち渡航を要する研究（2 件）については、2022 年度以降へ延期した。

3. 普及啓発事業

当年度に実施した普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

- ① 研究誌「談」121 号～123 号
- ② 機関誌「TASC MONTHLY」544 号(4 月号)～555 号(3 月号)
- ③ 研究誌「たばこ史研究」153 号～154 号
- ④ 「2020 年度事業概要」

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

調査結果や助成研究の成果、定期出版物等の情報を適時掲載し、発信情報の充実を図った。

(3) 雑誌での企画広告掲載

月刊総合誌『文藝春秋』にて、学識者の嗜好品に関する考察等を発表するインタビュー企画広告を 6 回実施した。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題等を研究領域としている学識者の探索を実施した。

II. 博物館事業部門

2021年度の入館者数は32,010人（対前年度189%）となった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館や、11月から1月までメンテナンス休館はあったものの、特別展の入館者数は戻りつつある。依然、新型コロナウイルスの影響はあり、従業員・来館者の安全を最優先しているが、充実した博物館運営と情報発信力を維持するため、下記のとおり取り組んだ。

1. 安定かつ充実した博物館運営

- (1) これまで蓄積した各種知見を踏まえ、業務・運営面での課題等への対応を適時に行い、質の高い入館者サービスの維持に努めた。
- (2) 7月13日～16日および11月16日～1月11日を、メンテナンス臨時休館とし、館内設備の点検ならびに補修等を実施した。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大に対しては、従業員および来館者の安全を第一に、下記対応を実施した。
 - ・従業員マスク着用、博物館各所にアルコール消毒液を設置する等、感染防止措置を徹底
 - ・「ミティラー美術館コレクション展 インド コスモロジーアート 自然と共生の世界」は、会期を2月6日～5月16日を予定していたが、東京都からの休業要請を受けて、4月24日で中止とした。
 - ・「第42回夏休み塩の学習室」は緊急事態宣言中の開催だったため、「塩の実験室」（イベント）をネット予約によって人数制限し、かつ開催回数を減らす形で実施した。

2. 調査研究活動

2021年度以降の展示企画に向けたテーマおよび下記の領域・分野を中心に、「たばこと塩の歴史と文化」および収蔵資料に関する調査研究を着実に推進した。

- (1) たばこ文化の発生と伝播
 - ① たばこ文化の発生と伝播
 - ② 世界のたばこ文化
- (2) 江戸時代の文化とたばこ
 - ① 浮世絵・版本
 - ② 江戸時代の各地の葉たばこ生産
 - ③ 江戸・明治期の喫煙具

(3) 近現代のたばこ文化・産業史

- ① 近現代のたばこ文化・産業史
- ② 戦前期の満州・朝鮮・台湾他、旧植民地関係たばこ調査
- ③ 葉たばこ生産に関する調査・外部との連携

(4) 塩の文化・サイエンス

- ① 塩の文化
 - ・塩利用の文化
 - ・塩生産の文化
- ② 塩のサイエンス

(5) 産業・企業系博物館論についての調査研究

- ・「COMIC」や各種学会にオンライン形式で参加した。

3. 情報発信力の維持

(1) 情報発信活動

① 特別展の開催等

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったものの、「杉浦非水 時代をひらくデザイン」を含め年間5回の特別展および展示関連講演会等を予定通り開催し、質の高い情報発信に努めた。

② イベント・講座

古文献・古文書を読む会（3回）などを開催した。

③ 刊行物（年報をのぞく）

「たばこ盆 地味な立ち位置・たしかな仕事」

④ 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ・常設展示の展示替

江戸時代のたばこ文化コーナーは6回、コレクションギャラリーは4回実施した。

- ・視聴覚ホール

特別展に関連して講演会を6回（内2回は2022年度）実施した。なお、すべて事前申し込み制とし、会場の定員の半分以下で開催した。

- ・図書閲覧室

特別展に合わせて開架図書を変える等来館者サービスの向上に努めた。

(2) 収蔵資料等のデータベース化と活用

収蔵資料等のデータベース化を進め、来館者へのサービス向上を図った。

(3) 周知広報・PR

① 所在地周知PR・アクセス案内

HP、メトロ最寄り駅駅貼りポスター、東京メトロ総合出口案内板、電柱広告、消

火栓標識広告等を通じ案内を行った。

② 特別展・イベント等の周知

HP、ツイッター、リリース配信、新聞およびインターネットなど、多様なメディア、手段を通じて事前周知を行った。

WEB 展覧会や YouTube 上に展示解説動画をアップするなど、博物館に来館せずとも楽しめるコンテンツを作成した。

③ HP・SNS を通じた情報発信

特別展や臨時休館等、最新情報の発信を行った。

④ 他館等と連携した PR

東京の美術館・博物館等 95 施設の共通入館券「ぐるっとパス 2021」に加入した。

4. 地域社会との良好な関係維持

すみだ企業博物館連携協議会への参加等を通じ、地域社会、近隣博物館との交流を実施した。

5. 資料収集・整理・保存

(1) 史・資料保管体制の確立

収蔵資料の整理を順次進めるとともに、収蔵庫をはじめ館内の定期的な環境モニタリングおよび IPM（総合的有害生物管理）の確立を進めた。

(2) 寄贈資料への対応

寄贈資料については、資料検討委員会で評価を行い、192 件の資料を収集・登録するとともに、寄贈者への適切なリファレンスを実施した。

(3) 資料購入

80 件を購入した。

(4) ポスターの実物資料収集等

新製品のポスター、パッケージ等の資料は、継続して収集した。

(5) JT 廃止工場・支店資料収集等

2021 年度をもって廃止となった工場・支店の資料収集を、JT 渉外企画室と協力して行った。

6. その他の活動

(1) 職員の教育・研修

関連団体・学会等による研究会・研修会などへ積極的に参加した。

(2) ミュージアムショップ

オリジナル商品の製作・販売のほか、展覧会毎に関連商品の販売を行い、好評を得

た。

(3) 博物館実習受入

6 大学 7 名を受け入れた。

以上